

羽陽学園短期大学 介護福祉士実務者研修
シラバス

科目 (担当)	時間数 (授業方法)	教育に含むべき事項	到達目標
人間の尊厳と自立 (伊藤和雄)	5 (通信授業)	人間の尊厳と自立	○尊厳の保持、 <u>自立の支援</u> 、ノーマライゼーション、利用者のプライバシーの保護、権利擁護等、介護の基本的な理念を理解している。
指導の視点と指導方法			評価方法
【指導の視点】 ・介護における基本的理念 【指導方法】 レポート提出課題等により、習得度の確認と質問票を用いたの自己学習			レポート提出等課題を評価する。 評価基準 A：80点以上、 B：79～70点、 C：69～60点、 D：59点以下 D評価の場合は、再度課題の提出等行い、60点以上になるまで繰り返し行う。その場合の最終評価は、C評価とする。

科目 (担当)	時間数 (授業方法)	教育に含むべき事項	到達目標
社会の理解 I (伊藤和雄)	5 (通信授業)	介護保険制度	○介護保険制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。
指導の視点と指導方法			評価方法
【指導の視点】 ・介護保険制度の目的、仕組み、サービスの理解 【指導方法】 レポート提出課題等により、習得度の確認と質問票を用いたの自己学習			レポート提出等課題を評価する。 評価基準 A：80点以上、 B：79～70点、 C：69～60点、 D：59点以下 D評価の場合は、再度課題の提出等行い、60点以上になるまで繰り返し行う。その場合の最終評価は、C評価とする。

羽陽学園短期大学 介護福祉士実務者研修
シラバス

科目 (担当)	時間数 (授業方法)	教育に含むべき事項	到達目標
社会の理解Ⅱ (伊藤和雄)	30 (通信授業)	①社会と生活のしくみ ②地域共生社会の実現に向けた制度や施策 ③社会保障制度 ④障害者総合支援法 ⑤介護実践に関する諸制度	○家族、地域、社会との関連から生活と福祉をとらえることができる。 ○地域共生社会の考え方と地域包括ケアのしくみについての基本的な知識を習得している。 ○社会保障制度の発達、体系、財源等についての基本的な知識を習得している。 ○障害者総合支援法の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。 ○成年後見制度、生活保護制度、保健医療サービス等、介護実践に関連する制度の概要を理解している。
指導の視点と指導方法			評価方法
【指導の視点】 ・地域における福祉サービスの在り方 ・社会保障、障害者総合支援法等諸制度 【指導方法】 レポート提出課題等により、習得度の確認と質問票を用いた自己学習			レポート提出等課題を評価する。 評価基準 A：80点以上、 B：79～70点、 C：69～60点、 D：59点以下 D評価の場合は、再度課題の提出等行い、60点以上になるまで繰り返し行う。その場合の最終評価は、C評価とする。
科目 (担当)	時間数 (授業方法)	教育に含むべき事項	到達目標
介護の基本Ⅰ (荒木隆俊)	10 (通信授業)	①介護福祉士の役割と機能 ②尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と展開 ③介護福祉士の倫理	○介護福祉士の法的な定義や義務を踏まえ、介護予防や看取り、災害時等における介護福祉士の役割を理解している。 ○個別ケア、ICF、リハビリテーション等の考え方を踏まえ、尊厳の保持、自立に向けた介護を展開するプロセス等を理解している。 ○介護福祉士の職業倫理、身体拘束禁止・虐待防止に関する法制度等を理解し、倫理を遵守している。
指導の視点と指導方法			評価方法
【指導の視点】 ・介護福祉士の職業倫理 【指導方法】 レポート提出課題等により、習得度の確認と質問票を用いた自己学習			レポート提出等課題を評価する。 評価基準 A：80点以上、 B：79～70点、 C：69～60点、 D：59点以下 D評価の場合は、再度課題の提出等行い、60点以上になるまで繰り返し行う。その場合の最終評価は、C評価とする。

羽陽学園短期大学 介護福祉士実務者研修
シラバス

科目 (担当)	時間数 (授業方法)	教育に含むべき事項	到達目標
介護の基本Ⅱ (伊藤和雄) (荒木隆俊)	20 (通信授業)	①介護を必要とする人の生活の理解と支援 ②介護実践における連携 ③介護における安全の確保とリスクマネジメント ④介護従事者の安全	○介護を必要とする高齢者や障害者等の生活を理解し、ニーズや支援の課題を把握することができる。 ○チームアプローチに関わる職種や関係機関の役割、連携方法に関する知識を習得している。 ○リスクの分析と事故防止、感染管理等、介護における安全確保に関する知識を習得している。 ○介護従事者の心身の健康管理や労働安全対策に関する知識を習得している。
指導の視点と指導方法			評価方法
【指導の視点】 ・連携 ・利用者ニーズ把握と介護実践 ・介護における安全とリスクマネジメント 【指導方法】 レポート提出課題等により、習得度の確認と質問票を用いたの自己学習			レポート提出等課題を評価する。 評価基準 A：80点以上、 B：79～70点、 C：69～60点、 D：59点以下 D評価の場合は、再度課題の提出等行い、60点以上になるまで繰り返し行う。その場合の最終評価は、C評価とする。

科目 (担当)	時間数 (授業方法)	教育に含むべき事項	到達目標
コミュニケーション技術 (荒木隆俊)	20 (通信授業)	①介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション ②介護におけるチームマネジメントとコミュニケーション	○本人・家族との支援関係を構築し、意志決定を支援することができる。 ○利用者の感覚・運動・認知等の機能に応じたコミュニケーションの技法を選択し活用できる。 ○チームマネジメント(組織の運営管理、人材管理、リーダーシップ・フォロワーシップ等)に関する知識を理解し、活用できる。 ○状況や目的に応じた記録、報告、会議等での情報の共有化ができる。
指導の視点と指導方法			評価方法
【指導の視点】 ・相談援助 ・コミュニケーション技法 ・カンファレンス等における連携 【指導方法】 レポート提出課題等により、習得度の確認と質問票を用いたの自己学習			レポート提出等課題を評価する。 評価基準 A：80点以上、 B：79～70点、 C：69～60点、 D：59点以下 D評価の場合は、再度課題の提出等行い、60点以上になるまで繰り返し行う。その場合の最終評価は、C評価とする。

羽陽学園短期大学 介護福祉士実務者研修
シラバス

科 目 (担当)	時間数 (授業方法)	教育に含むべき事項	到 達 目 標
生活支援技術Ⅰ (荒木隆俊) (松田水月)	20 (通信授業)	①生活支援とICF ②ボディメカニクスの活用 ③生活支援技術の基本(・移動、移乗・食事・入浴、清潔保持・排泄・着脱、整容、口腔清潔・家事援助等) ④環境整備、福祉用具活用等の視点	○生活支援におけるICFの意義と枠組みを理解している。 ○ボディメカニクスを活用した介護の原則を理解し、実施できる。 ○自立に向けた生活支援技術の基本(・移動、移乗・食事・入浴、清潔保持・排泄・着脱、整容、口腔清潔・家事援助等)を習得している。 ○居住環境の整備、福祉用具の活用等により、利用者の生活環境を整備する視点・留意点を理解している。
指導の視点と指導方法			評 価 方 法
【指導の視点】 ・ボディメカニクスの活用 ・基本介護技術 ・住環境整備、福祉用具の活用 【指導方法】 レポート提出課題等により、習得度の確認と質問票を用いたの自己学習			レポート提出等課題を評価する。 評価基準 A：80点以上、 B：79～70点、 C：69～60点、 D：59点以下 D評価の場合は、再度課題の提出等行い、60点以上になるまで繰り返し行う。その場合の最終評価は、C評価とする。
科 目 (担当)	時間数 (授業方法)	教育に含むべき事項	到 達 目 標
生活支援技術Ⅱ (荒木隆俊) (宮地康子)	30 (通信授業)	①利用者の心身の状態に合わせた生活支援技術 ・環境整備・移動、移乗・食事・入浴、清潔保持・排泄・着脱、整容、口腔清潔 ・休息、睡眠・人生の最終段階における介護・福祉用具等の活用	○以下について、利用者の心身の状況に合わせた、自立に向けた生活支援技術を理解し、行うことができる。 ・環境整備・移動、移乗・食事・入浴、清潔保持・排泄・着脱、整容、口腔清潔・休息、睡眠・人生の最終段階における介護・福祉用具等の活用
指導の視点と指導方法			
【指導の視点】 ・ボディメカニクスの活用 ・基本介護技術 ・住環境整備、福祉用具の活用 【指導方法】 レポート提出課題等により、習得度の確認と質問票を用いたの自己学習			レポート提出等課題を評価する。 評価基準 A：80点以上、 B：79～70点、 C：69～60点、 D：59点以下 D評価の場合は、再度課題の提出等行い、60点以上になるまで繰り返し行う。その場合の最終評価は、C評価とする。

羽陽学園短期大学 介護福祉士実務者研修
シラバス

科目 (担当)	時間数 (授業方法)	教育に含むべき事項	到達目標
介護過程Ⅰ (荒木隆俊)	20 (通信授業)	①介護過程の基礎的知識 ②介護過程の展開 ③介護過程とチームアプローチ	○介護過程の目的、意義、展開等を理解している。 ○介護過程を踏まえ、目標に沿って計画的に介護を行う。 ○チームで介護過程を展開するための情報共有の方法、 <u>他の</u> 職種の役割を理解している。
指導の視点と指導方法			評価方法
【指導の視点】 ・介護過程の全体像 ・連携 【指導方法】 レポート提出課題等により、習得度の確認と質問票を用いた自己学習			レポート提出等課題を評価する。 評価基準 A：80点以上、 B：79～70点、 C：69～60点、 D：59点以下 D評価の場合は、再度課題の提出等行い、60点以上になるまで繰り返し行う。その場合の最終評価は、C評価とする。

科目 (担当)	時間数 (授業方法)	教育に含むべき事項	到達目標
介護過程Ⅱ (伊藤和雄) (荒木隆俊)	25 (通信授業)	介護過程の展開の実際 ①利用者の状態(障害、要介護度、医療依存度、居住の場、家族の状況等)について事例を設定し、介護過程を展開させる。 ②観察のポイント、安全確保・事故防止、家族支援、他機関との連携等について考察させる。	○情報収集、アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直しを行うことができる。
指導の視点と指導方法			評価方法
【指導の視点】 ・介護過程の全体像 ・介護計画書の立案 ・連携 【指導方法】 レポート提出課題等により、習得度の確認と質問票を用いた自己学習			レポート提出等課題を評価する。 評価基準 A：80点以上、 B：79～70点、 C：69～60点、 D：59点以下 D評価の場合は、再度課題の提出等行い、60点以上になるまで繰り返し行う。その場合の最終評価は、C評価とする。

羽陽学園短期大学 介護福祉士実務者研修
シラバス

科目 (担当)	時間数 (授業方法)	教育に含むべき事項	到達目標
介護過程Ⅲ (伊藤和雄) (荒木隆俊)	45 (面接授業)	①介護過程の展開の実際 ・多様な事例を設定し、介護過程を展開させるとともに、知識・技術を総合的に活用した分析力・応用力を評価する。 ②介護技術の評価 ・介護技術の原理原則の習得・実践とともに、知識・技術を総合的に活用した判断力、応用力を評価する。	○実務者研修課程で学んだ知識・技術を確実に習得し、活用できる。 ○知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じて介護過程を展開し、系統的な介護（アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直し等）を提供できる。 ○介護計画を踏まえ、安全確保・事故防止、家族との連携・支援、他職種、他機関との連携を行うことができる。 ○知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じた介護を行うことができる。
指導の視点と指導方法			評価方法
【指導の視点】 ・介護過程の全体像 ・介護計画書の立案 ・連携 【指導方法】 面接授業にて、講義・演習（個人・グループワーク等）を行い、介護過程の展開及び介護技術の指導を行う。			到達度確認試験（筆記・実技）を実施し判断する。 評価基準 A：80点以上、 B：79～70点、 C：69～60点、 D：59点以下 D評価の場合は、再度面接授業を受講し、60点以上になるまで繰り返し行う。その場合の最終評価は、C評価とする。

科目 (担当)	時間数 (授業方法)	教育に含むべき事項	到達目標
発達と老化の理解Ⅰ (松田水月)	10 (通信授業)	①老化に伴う心の変化と日常生活への影響 ②老化に伴うからだの変化と日常生活への影響	○老化に伴う心理的な変化の特徴と日常生活への影響を理解している。 ○老化に伴う身体機能の変化の特徴と日常生活への影響を理解している。
指導の視点と指導方法			評価方法
【指導の視点】 ・老化 【指導方法】 レポート提出課題等により、習得度の確認と質問票を用いた自己学習			レポート提出等課題を評価する。 評価基準 A：80点以上、 B：79～70点、 C：69～60点、 D：59点以下 D評価の場合は、再度課題の提出等を行い、60点以上になるまで繰り返し行う。その場合の最終評価は、C評価とする。

羽陽学園短期大学 介護福祉士実務者研修
シラバス

科 目 (担当)	時間数 (授業方法)	教育に含むべき事項	到 達 目 標
発達と老化の 理解Ⅱ (宮地康子)	20 (通信授業)	①人間の成長・発達 ②老年期の発達・成熟と心理 ③高齢者に多い症状・疾病等と 留意点	○ <u>ライフサイクル各期</u> の発達の定義、発達段階、発達課題について理解している。 ○老年期の発達課題、心理的な課題（老化、役割の変化、障害、喪失、経済的不安、うつ等）と支援の留意点について理解している。 ○高齢者に多い症状・疾病等と支援の留意点について理解している。
指導の視点と指導方法			評 価 方 法
【指導の視点】 ・老化 ・高齢者の疾病 【指導方法】 レポート提出課題等により、習得度の確認と質問票を用いたの自己学習			レポート提出等課題を評価する。 評価基準 A：80点以上、 B：79～70点、 C：69～60点、 D：59点以下 D評価の場合は、再度課題の提出等行い、60点以上になるまで繰り返し行う。その場合の最終評価は、C評価とする。

科 目 (担当)	時間数 (授業方法)	教育に含むべき事項	到 達 目 標
認知症の理解Ⅰ (宮地康子)	10 (通信授業)	①認知症ケアの理念 ②認知症による生活障害、心理・行動の特徴 ③認知症の <u>人や家族へ</u> のかかわり・支援の基本	○認知症ケアの取組の経過を踏まえ、今日的な認知症ケアの理念を理解している。 ○認知症による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。 ○認知症の <u>人やその家族</u> に対する <u>関わり方・支援</u> の基本を理解している。
指導の視点と指導方法			評 価 方 法
【指導の視点】 ・認知症の特徴及び支援方法 【指導方法】 レポート提出課題等により、習得度の確認と質問票を用いたの自己学習			レポート提出等課題を評価する。 評価基準 A：80点以上、 B：79～70点、 C：69～60点、 D：59点以下 D評価の場合は、再度課題の提出等行い、60点以上になるまで繰り返し行う。その場合の最終評価は、C評価とする。

羽陽学園短期大学 介護福祉士実務者研修
シラバス

科目 (担当)	時間数 (授業方法)	教育に含むべき事項	到達目標
認知症の理解Ⅱ (松田水月)	20 (通信授業)	①医学的側面から見た認知症の理解 ②認知症の人への支援の実際	○代表的な認知症（若年性認知症を含む）の原因疾患、症状、障害、認知症の進行による変化、検査や治療等についての医学的知識を理解している。 ○認知症の人の生活歴、疾患、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、 <u>本人主体の理念に基づいた支援</u> ができる。 ○地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。
指導の視点と指導方法			評価方法
【指導の視点】 ・認知症の医学的理解 ・認知症の支援方法 【指導方法】 レポート提出課題等により、習得度の確認と質問票を用いたの自己学習			レポート提出等課題を評価する。 評価基準 A：80点以上、 B：79～70点、 C：69～60点、 D：59点以下 D評価の場合は、再度課題の提出等行い、60点以上になるまで繰り返し行う。その場合の最終評価は、C評価とする。

科目 (担当)	時間数 (授業方法)	教育に含むべき事項	到達目標
障害の理解Ⅰ (伊藤和雄)	10 (通信授業)	①障害者福祉の理念 ②障害による生活障害、心理・行動の特徴 ③障害のある人や家族へのかかわり・支援の基本	○障害の概念の変遷や障害者福祉の歴史を踏まえ、今日的な障害者福祉の理念を理解している。 ○障害（身体・知的・精神・発達障害・難病等）による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。 ○障害のある人やその家族に対する関わり方・支援の基本を理解している。
指導の視点と指導方法			評価方法
【指導の視点】 ・障害者福祉及び支援 【指導方法】 レポート提出課題等により、習得度の確認と質問票を用いたの自己学習			レポート提出等課題を評価する。 評価基準 A：80点以上、 B：79～70点、 C：69～60点、 D：59点以下 D評価の場合は、再度課題の提出等行い、60点以上になるまで繰り返し行う。その場合の最終評価は、C評価とする。

羽陽学園短期大学 介護福祉士実務者研修
シラバス

科目 (担当)	時間数 (授業方法)	教育に含むべき事項と教育内容	到達目標
障害の理解Ⅱ (伊藤和雄)	20 (通信授業)	①医学的側面からみた障害の理解 ②障害の特性に応じた支援の実際	○様々な障害の種類・原因・特性、障害に伴う機能の変化等についての医学的知識を習得している。 ○障害の特性、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援ができる。 ○地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。
指導の視点と指導方法			評価方法
【指導の視点】 ・障害に関する医学的知識 ・障害者支援 【指導方法】 レポート提出課題等により、習得度の確認と質問票を用いたの自己学習			レポート提出等課題を評価する。 評価基準 A：80点以上、 B：79～70点、 C：69～60点、 D：59点以下 D評価の場合は、再度課題の提出等行い、60点以上になるまで繰り返し行う。その場合の最終評価は、C評価とする。

科目 (担当)	時間数 (授業方法)	教育に含むべき事項	到達目標
こころとからだのしくみⅠ (宮地康子)	20 (通信授業)	介護に関係した身体の仕組みの基礎的な理解（・移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔等）	○介護に関係した身体の構造や機能に関する基本的な知識を習得している。
指導の視点と指導方法			評価方法
【指導の視点】 ・身体の機能と構造 【指導方法】 レポート提出課題等により、習得度の確認と質問票を用いたの自己学習			レポート提出等課題を評価する。 評価基準 A：80点以上、 B：79～70点、 C：69～60点、 D：59点以下 D評価の場合は、再度課題の提出等行い、60点以上になるまで繰り返し行う。その場合の最終評価は、C評価とする。

羽陽学園短期大学 介護福祉士実務者研修
シラバス

科目 (担当)	時間数 (授業方法)	教育に含むべき事項	到達目標
こころとからだのしくみⅡ (松田水月)	60 (通信授業)	①人間の心理 ②人体の構造と機能 ③身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護における観察・アセスメントのポイント、連携等の留意点(・移動、移乗・食事・入浴、清潔保持・排泄・着脱、整容、口腔清潔・休息、睡眠・人生の最終段階のケア)	○人間の基本的欲求、学習・記憶等に関する基礎的知識を習得している。 ○生命の維持・恒常、人体の部位、骨格・関節・筋肉・神経、ボディメカニクス等、人体の構造と機能についての基本的な知識を習得している。 ○身体の仕組み、心理・認知機能等についての知識を活用し、観察・アセスメント、関連する職種との連携が行える。
指導の視点と指導方法			評価方法
【指導の視点】 ・身体の機能と構造 ・実際の支援 【指導方法】 レポート提出課題等により、習得度の確認と質問票を用いたの自己学習			レポート提出等課題を評価する。 評価基準 A：80点以上、 B：79～70点、 C：69～60点、 D：59点以下 D評価の場合は、再度課題の提出等行い、60点以上になるまで繰り返し行う。その場合の最終評価は、C評価とする。

羽陽学園短期大学 介護福祉士実務者研修
シラバス

科 目 (担当)	時間数 (授業方法)	教育に含むべき事項	到 達 目 標
医療的ケア (松田水月)(宮地康子)	50 (通信授業) 8(*) (面接授業)	①医療的ケア実施の基礎 ②喀痰吸引(基礎的知識・実施手順) ③経管栄養(基礎的知識・実施手順) ④演習(口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内部吸引、胃瘻・経鼻、救急蘇生法)	○医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。
指導の視点と指導方法			評 価 方 法
<p>【指導の視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医学的知識の習得 ・喀痰吸引、経管栄養の知識及び、演習を通じて実技の習得 <p>【指導方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通信授業においては、レポート提出課題等により、習得度の確認と質問票を用いての自己学習 ・面接授業においては、厚生労働省通知「喀痰吸引等研修実施要綱」に従い、適切な実施が行えているか確認、指導を行う 			<p>【通信授業】</p> <p>レポート提出等課題を評価する。</p> <p>評価基準 A：80点以上、 B：79～70点、 C：69～60点、 D：59点以下 D評価の場合は、再度課題の提出等行い、60点以上になるまで繰り返し行う。その場合の最終評価は、C評価とする。</p> <p>【面接授業】*下記の回数を終了するまで行う。各評価は喀痰吸引等の通知に従い実施する。 喀痰吸引(口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内部)・経管栄養(胃瘻・経鼻)は各5回以上、心肺蘇生は1回以上行い、その評価をする。</p>
<p>【指導の視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体の機能と構造 ・実際の支援 <p>【指導方法】</p> <p>レポート提出課題等により、修得度の確認と質問票を用いての自己学習</p>			<p>レポート提出等課題を評価する。</p> <p>評価基準 A：80点以上、 B：79～70点、 C：69～60点、 D：59点以下 D評価の場合は、再度課題の提出等行い、60点以上になるまで繰り返し行う。その場合の最終評価は、C評価とする。</p>